



新・包装関連研究「海外の動き」第4回
The 28th IAPRI Symposium on
Packaging 2017（第28回国際包装研究機関
連盟包装シンポジウム2017）参加報告

農研機構 食品研究部門 食品加工流通研究領域
食品流通システムユニット 主任研究員 北澤 裕明

1. はじめに

筆者は、2017年5月9日から12日にかけてスイス連邦ヴォー州ローザンヌにあるオリンピック博物館で開催された標記会議に出席し、ポスター発表を行いました。今回は、シンポジウムの様子などについて紹介します。

2. 行程（往路）

まず、成田空港からチューリッヒ空港まで行き（約12時間30分）、そこから国内線に乗り継ぎジュネーブ空港に到着しました（約45分）。さらに、そこからスイス連邦鉄道（CFF）に乗り換え、恐らく40～50分でローザンヌ駅へ到着しました。鉄道沿いの古い建物には、日本でもありがちな落書きがあちこちにありましたが（写真省略）、遠景は美しく会場付近の風景はまさにスイスに対して抱いていたイメージそのものでした（写真1）。



写真1：会場付近の風景（手前は、レマン湖。向こう岸は、フランス共和国）

3. シンポジウムの概要

口頭発表とポスター発表があり、前者については Packaging Performance（包材の特性評価）、Packaging Design & Printing（デザインと印刷）、Food & Beverage Packaging（食品・飲料の包装）、Transport & Distribution Packaging（輸送包装）、Novel Packaging Functionality（新奇(規)の機能性包装）など計 9 つのセッションから構成されておりました。その他、口頭発表では Keynote Session（基調講演）と奨学生の成果発表がありました。3つの基調講演のうち1つは、新興経済国における食品ロス削減における食品包装の役割に関するテーマであり（※1）、筆者にとって今回のシンポジウムの中で、最も印象に残りました。

口頭発表とポスター発表の件数を合わせると、130 以上であり、参加国数は 20 でした。日本からは、筆者の他、東京国立博物館の和田浩氏と神戸大学の斎藤勝彦教授のグループ、および神栄テストマシナリー株式会社の川口和晃氏が、それぞれ「Study on Transport Environment of Cultural Properties via Ship in Japan」、「Proposal of New Equivalent Drop Testing Method」というタイトルで、文化財の船舶による日本国内輸送の環境解析、および新しい等価落下試験方法の提案に関する研究についてポスター発表を行っております。以下に、筆者の発表テーマについて少し紹介します。

※1 : The role of packaging in reducing food losses in developing and emerging economies
By Dr. Rosa S. Rolle, Senior Enterprise Development Officer, FAO

4. 発表テーマ

筆者は、「A Packaging System Proposal to Prevent Repetitive-Shock-Induced Berry Drop in Grapes（繰り返し衝撃によるブドウの脱粒を防止する包装方法の提案）」というタイトルでポスター発表を行いました（写真2）。

筆者らは、昨年度までに衝撃によるブドウの脱粒（※2）を防止する包装方法を提案しておりますが（図1）¹⁾、今回の発表では、提案した方法の仕組みとその方法

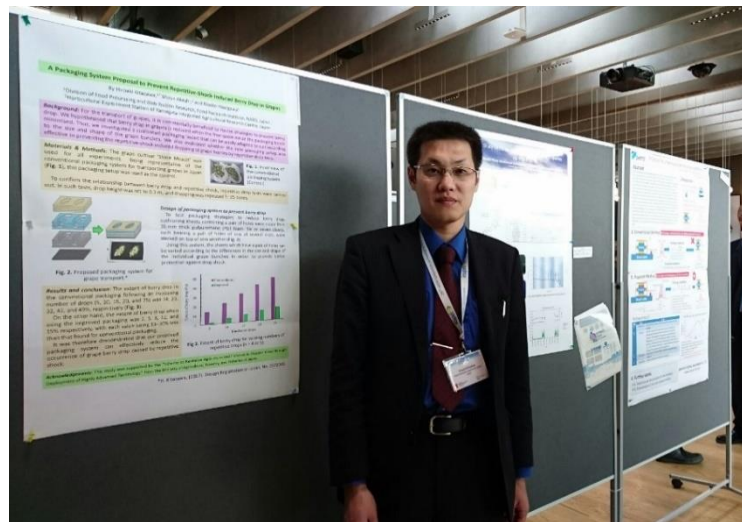


写真2 : ポスター発表会場と筆者

出典 :

http://www.naro.affrc.go.jp/project/research_activities/laboratory/nfri-neo/075439.html

が 1 回の衝撃のみならず、繰り返し衝撃による脱粒に対しても有効であることを実証した試験結果について発表しました。

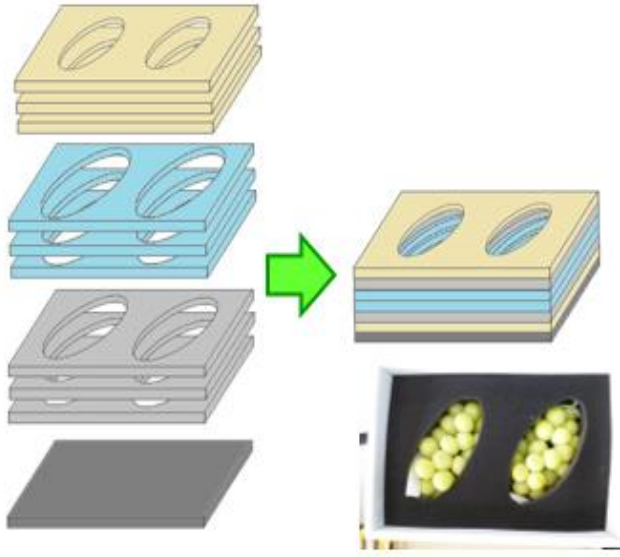


図 1 : ブドウの脱粒防止包装方法^{1), 2)}

(異なる径の貫通穴を有する緩衝材を組み合わせて積層することにより、対象物の大きさ・形状を問わず、容器内の隙間(遊び)を確実に解消できる。このことにより、衝撃による脱粒を防止できる)

発表時間には多くの訪問者があり、ポスター原稿の別刷りのリクエストを受けたりしたこと、シンポジウムの参加者にそれなりに関心を持ってもらえたものと考えております。特に、特許の有無など権利化に関する質問を何度か受けたことが印象的でした。また、質問者とのやりとりの中で、海外におけるブドウの包装の現状に関する情報を得ることができ、このことが今回シンポジウムに参加した中で一番の収穫であったと考えております。

※2 : ブドウの果粒(個々のつぶつぶ)が果柄(つる)から外れること。脱粒が著しい場合、商品価値が大きく低下するため、ブドウの流通過程において脱粒を防止することは、きわめて重要である。

5. おわりに

2で述べた通り、国際色豊かという印象が強いシンポジウムでした。筆者の英語力は相当低いのですが、むしろ英語を母国語とする国からの参加者の方が少ないのでは?と聞き直ると、発表中のディスカッションやディナー中の会話などをこなすことができました。

また、筆者が IAPRI の大会(シンポジウムとカンファレンス)に参加するのは今回で 5 回目ということもあり、「おー、久しぶり!」といったノリで話ができる顔なじみも少しは増えました。引き続き、IAPRI を軸として国際的な活動を継続し、我が国の食品包装技術の発信を図るとともに、海外の最新情報の収集に努めて参りたいと思います。

なお、次回の IAPRI の大会は、2018 年 6 月 19~22 日に中華人民共和国の珠海市(マカオの隣)で開催されます The 21st IAPRI World Conference on Packaging 2018 です。本年の様なシンポジウムとは異なり、IAPRI の非会員でも参加可能ですし、何より日本からも近いですので、ご興味のある方は、参加を検討されてみてはいかがでしょうか。最新情報につきましては、リンク先<<http://www.2018iapriconference.org/>>をご参照下さい。



6. 謝 辞

ポスター発表の成果は、農林水産省「食料生産地再生のための先端技術展開事業（被災地の早期復興に資する果樹生産・利用技術の実証研究）」により得られたものです。ここに記して御礼申し上げます。

参 考

- 1) Kitazawa *et al.* Proposal for an efficient packaging system for preventing shock-induced berry drop in grapes during transportation and handling. *Food Preservation Science* 43(1), 23-28. 2017.
- 2) 北澤裕明. 梱包用緩衝材. 意匠登録第 1572040 号. 2017.